

訓練生制度

Training Programs



在日米軍は、主に採用において経験者を求めています。横須賀海軍施設などでは未経験者を育成する制度があります。ここでは、艦船修理の技能工を育成する「技能訓練生制度」、エンジニアを育成する「艦船修理技術者育成プログラム(EPDP)」の2つの制度を紹介します。

SRF-JRMC技能訓練生制度 ～4年間のプログラムで職人に～

米海軍第7艦隊 艦船の修理を担う職人に

米海軍横須賀艦船修理廠及び日本地区造修統括本部(SRF-JRMC)は、長年にわたり米海軍第7艦隊への修理業務を行ってきましたが、1980年代に入り優れた技能と専門知識を備えた多くの熟練技能工が定年退職を迎えたことから、技能訓練生制度を設立しました。米国海軍工廠で行われている見習工制度をモデルにした本制度は、日本人従業員を技能工として養成する重要な役割を担っています。第一期技能訓練生の入廠は1985年10月1日に遡ります。

訓練生は、入廠式に続き新入従業員オリエンテーションを受けたあと、採用時に決定された工場に配属され、それぞれの職務について4ヵ月間の基礎教育を受けます。その後は長時間に及ぶ、英語のみで受講する英語の訓練に臨みます。英語の授業はテキサス州ラックランド空軍基地の国防総省語学機関が提供するプログラムに則り、同機関から派遣された講師等によって行われます。英語訓練の後、各職場のインストラクターや職長の指導のもと、実務訓練を中心とした技能を学びます。制度開始から多くの訓練生がこの技能訓練制度を修了し、現在では卒業生の中から工場長や職長が誕生し、SRF-JRMCの多くの職場で活躍しています。



▶募集時期：年1回予定 ▶応募資格：高校卒業程度の日本語の理解力を有すること

平成29年4月からSRF-JRMC佐世保分所においても、「技能訓練生制度」が開始されました。
詳しくは、こちら▶ <https://www.lmo.go.jp/recruitment/index3.html#srfasasebo>



艦船修理技術者育成プログラム(EPDP) ～4年間のOJTで技術支援のエキスパートに～

米海軍第7艦隊の機能を技術面でサポート

SRF-JRMCは、米海軍艦船へのメンテナンス、改造工事、ドック内や海上での多くの修理業務を行います。これらの業務では、艦船修理の知識を有する技術者の確保が必須で、SRF-JRMCは「艦船修理技術者育成プログラム(EPDP)」を立ち上げ、将来にむけて有望な人材の確保にあたっています。

プログラムの目的は、未経験者を4年間で技術部又は企画見積部の技術支援のエキスパートに育成することです。職務の性質上、このプログラムでは機械、電気、電子、構造、船舶などの工学分野の一般的な原理、理論の理解力が求められます。大学レベルの工学知識を求めています。

このプログラムは、艦船修理に関連する技術理論習得のための座学研修や、OJT(On-the-Job Training)と呼ばれる職場内業務訓練で構成されています。また、SRF-JRMC語学訓練課による英語訓練もプログラムの一環です。業務上必要な資格取得のため、外部機関による訓練に参加する機会もあります。

採用時には英語の能力を必要としませんが、期間中は、知識、技術、勤務態度、英語能力について評価を行い、4年間で訓練を修了することを目的としています。

SRF-JRMCでは、「第7艦隊の艦船を常に機能させる状態を保つ」という使命達成のため、熱意と意欲のある人材を必要としています。



▶募集時期：3月頃予定 ▶応募資格：大卒(卒業見込み可、学部不問)または事務職、技術職における実務経験1年以上(分野不問)

SRF-JRMCの紹介動画「Linchpin of Pacific(太平洋の要)」はこちら▶ YouTube <https://www.srf.navy.mil/About-Us/Linchpin-of-the-Pacific/>

SRF 要

検索

